
Interview with
RYUICHO and **SAORI MATSUO**
INTERVIEWER AND TEXT BY HIROMI SETA DESIGN BY SAORI SETA

アースデイ東京とダイベストメント

1970年、アースデイはアメリカのG・ネルソン上院議員が4月22日を“地球の日”であると宣言、アースデイが誕生。学生運動や市民運動が盛んだったこの時代に、アースデイを通して地球環境が抱える問題に関心を持ってもらうため、当時全米学生自治会長をしていたデニス・ヘイズ氏によって全米への呼びかけへとつながり2000万人以上もの人が呼応したといわれている。アースデイ東京は2001年から市民が中心となってスタート。2020年にはアースデイが50周年、アースデイ東京は20周年を迎える。今回はICAも実行委員として参加するアースデイ東京の事務局長である河野竜二さんとアースデイ東京のオフィススタッフ&ダイベストメントコミュニケーターでもある松尾沙織さんに、地球への想いとあわせて「アースデイ東京とダイベストメント」についてお話を伺いました。

アースデイ東京について

河野—2017年に事務局スタッフとして関わり始め、2018年に事務局長になり、この2019年のアースデイで2年目を迎えます。関わるきっかけになったのは、「これって本当に自分の人生なのかな」という自分自身への違和感から会社員を辞めたこと。日本の社会って働き方を含めて、衣食住、ライフスタイルや生き方なんか多様性からは程遠いところであって、「自立した自分らしい人生を歩みたい」と思って、10年勤めていた会社を辞めてフリーになったんですね。もともと海が好きだったこともあって神奈川県藤沢市の近くに引っ越し、時間があればサーフィンをしていました。環境のことを考え始めたのもそのころで、海に落ちているペットボトルなどのゴミや、砂浜そのものがなくなってきている現状を知る事で、自分なりのアクションができないかいろいろ考えながら、地域の清掃など町のコミュニティで活動していました。その時にアースデイ東京の理事に出会い、色々教えてもらう中でアースデイ東京の活動に参加する事で、環境問題だけでなく、人々の暮らしをよりよくするためのアクションができるんじゃないかと思い、事務局を志願しました。

今、オーガニック系のイベントは各地で沢山行われる様になり生活の一部に浸透しましたが、2001年から始まったアースデイ東京が多様な人が集まる場所として機能した事によって、そこから派生していったと言っても過言ではないと思います。今意識しているのは、アースデイ東京で学び、そこから各々の活動を広めて行き、ソーシャルムーブメントを作っていく人と、その動きの中で育っていかれた若い実践者たちを繋げていく事です。東京のと真ん中で、持続可能なライフスタイルを実践している人達の暮らしや活動を体感できる場になれば、来場者に様々な気付きを与えることができるんじゃないかと思っています。「世代を繋げる」事が僕の役割だと思っているので、今、実行委員会の中に新しい人が入ってきてくれることはすごく嬉しいですね。

代々木公園で開催しているアースデイ東京は、例年10万人以上の方が訪れるイベントなのですが、たまたま通りかかった人や単純に美味しい食事を楽しみたいという様な気持ちで

LOVING

地球を愛する選択

EARTH

